WEP

VOL. 114
ウエップ
俳句通信

俳句通信

特別作品25句　今瀬剛一「霜柱」

特集〈西池冬扇『高浜虚子・未来への触手』〉を読む

堀切　実　「虚子の『非情』の世界の可能性」
岸本尚毅　「メタ虚子論」
草深昌子　「神は虚子を俳人にした」
前北かおる　「触手によって何が生み出されつつあるのか」
角谷昌子　「『無常』から摑む虚子の触手」
神田ひろみ　「茂野六花先生」
石　寒太　「人間探求派からの読み方」
柳生正名　「虚子、脱ポストモダンへの触手」

【円熟作家12句】
山崎ひさを　「年忘」
きちせあや　「冬至梅」
棚本多映　「雪虫」
星野　椿　「春の月」

【実力作家30句】
菅野孝夫　「年を越す」

●作品●鈴木節子・田島和生・向田貴子・三村純也・福田眸子・和田華凜・松林朝香・蓮見勝朗・太田寛郎・
飯野幸雄・中村敦路・藤堂まさ志・中山和子・渡井恵子・河村正浩・森岡正作・照井　翠・成田一子

季節の中で ⑩

東京都荒川河川敷扇大橋下

透きとほるまで木に居たかつた木の葉

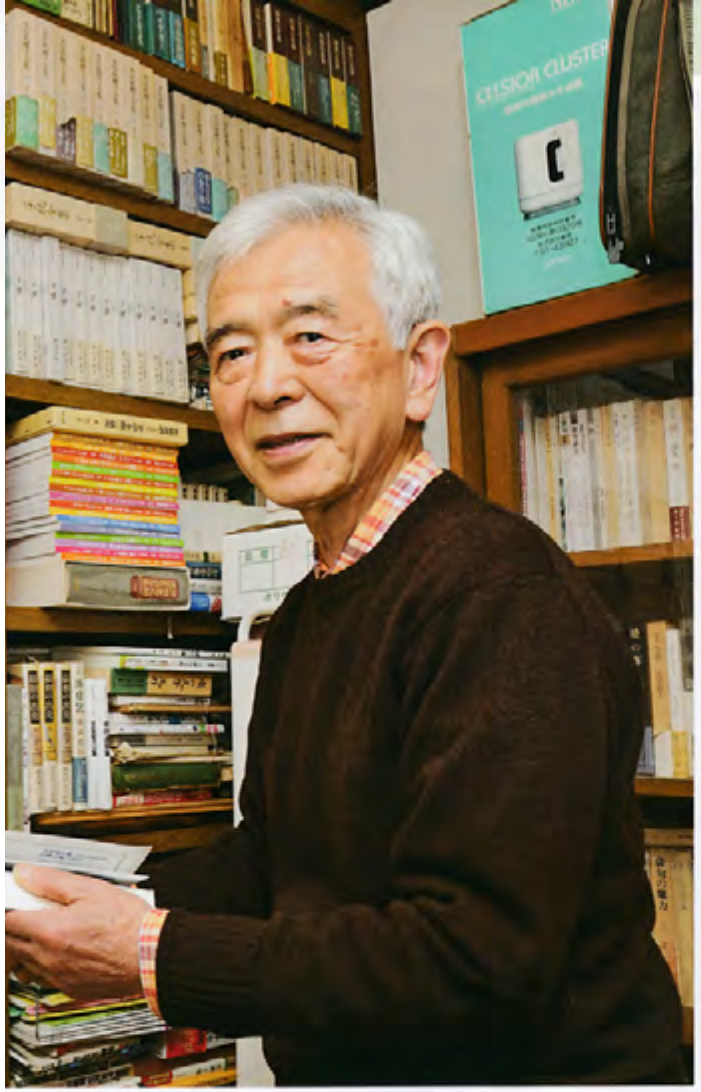
下坂速穂

初心の頃から吟行派だが、私は写実派ではない。自分の目に留まった一つのものを、心の底から見つめることで生まれる言葉を俳句としたい。そのときは形にならなくても、言葉にして温めておくと、あるときふっと俳句になってあらわれることがある。その「あるとき」を思い返すと、たとえば曇りがちな気分の日に明るい素材を拾って歩いていた日、新しい人が来た句会。そんなざわめきの中に生まれてきたかもしれない。

書斎にて

仲村青彦

去年ことし深き轍に星が降る



大陸の暗闇をバスは走った。巨大な轍がしばらくバスに並走し、町の近い外灯で消えた。インド・チェンナイからの深夜便の上で、あれは乾いた川だったかと考えたのだったが、やがて日本列島の闇をうごめくライトの帯がみえた刹那、あっ轍――と心が叫んだ。

帰宅は大晦日の午後になった。一夜飾りはしない注連飾を、それから産土神社と家の神々に十一個つくった。東北大震災以後、手作りの注連飾を産土神社に奉納する家が半減していた。

日本の祭り

左義長まつり

滋賀県

日牟禮神社の例祭。左義長とは新藁で作った松明の上に青竹を数本取り付け、それを赤紙、藻玉、巾着、扇などで飾り、中心にその年の干支にちなんだダシ（飾り物）を据えたもの。市内巡行、ダシコンクールなどが行われる。祭りの最後に左義長に奉火され、火の粉が夜空に舞い上がる姿は迫力満点。今年は3月14、15日に開催される。

問合せ先＝近江八幡市文化観光課☎0748－36－5529　写真提供／近江八幡市役所

特別作品25句

霜柱　今瀬剛一

杉樹を真二つにして長子たり
ぱらぱらときて寒雀同じ顔
二十号の花の絵もあり冬館
冬帽子海原波を生み続け
霜の野に立つ棒杭に似たるかな
攻めるにも似て白鳥の進むなり

特集

〈西池冬扇『高浜虚子・未来への触手』〉を読む

弊社から昨年秋に刊行された
西池冬扇著『高浜虚子・未来への触手』を
どう読んだか、について８人の方に
お書きいただきました。

堀切　実　岸本尚毅
草深昌子　前北かおる
角谷昌子　神田ひろみ
石　寒太　柳生正名

定価：本体2500円+税

超結社句会／新12番勝負

前列右から有住氏、宮本氏、中戸川氏
後列右から星野氏、鈴木氏、藤本氏

ゲスト　有住洋子・鈴木五鈴
中戸川由実・宮本佳世乃
ホスト　星野高士・藤本美和子

編集部　超結社句会第55回目です。ゲストは「白い部屋」編集人の有住洋子さん、「草の花」副主宰の鈴木五鈴さん、「残心」代表の中戸川由実さん、「炎環」同人の宮本佳世乃さん。ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士　今日は点が割れました。点の入らない句が少なかったですね。作者にも質問しますので、他人の句について言うように話してください。では今日の高点句・4点句から。

直立の幹に日当たる成人式　美和子

美和子　今日が成人式ということで、タイムリーな句だったので、すごく響いてきた、というのもありますし、お目出度く作っているんじゃないのかなと思いました。「直立の幹に日当たる」は、ちょっとお目出度すぎるかなという感はなきにしもあらずなんですが、やはり、成人する人を祝ってやろうという心があるような気がしたので頂きました。

五鈴　いかにも成人式だ、と言うことはいっさい言わないで、ただ、「直立の幹に日当たる」という景だけの中に成人式を置いたところが、気分よく読めたなと。ただ、「直立」が余分だな、という気がしながら頂きました。